

会

報



平成6年度 日本生物工学会 年次大会 後記

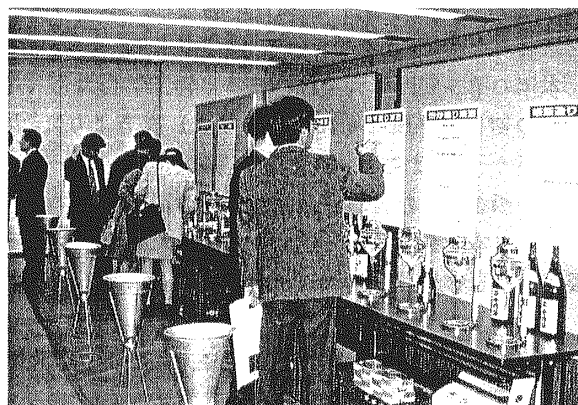
日本生物工学会の平成6年度大会は、平成6年11月28日(月)より30日(水)まで、神戸国際会議場(第1-第6会場)で開催された。尚、第7会場として隣接する神戸商工会議所会館の一部を使用した。3日間にわたって一般講演482件、シンポジウム6課題38件、受賞講演5件、招待講演2件、合わせて527件の講演が行われた。参加者数は会員、非会員を含めて1595人であり、かなりの盛況であったといえる。

また、展示会は32社の協力を得て国際会議場3階レセプションホールで行われた。第1日には、午前中に授賞式があり、永井会長挨拶、受賞選考経過報告のあと、生物工学賞(児玉 徹氏)、江田賞(西村 顕氏)、斉藤賞(高木昌宏氏)、照井賞(米谷 正氏)、技術賞(武部英日氏ら)、論文賞(松前裕明氏ら、北本勝ひこ氏ら、C. Intapruk 氏ら、黒川秀雄氏ら、森川正章氏ら)が授与された。ついで、児玉 徹氏より「微生物炭酸固定の多様性とその利用」と題した生物工学会賞受賞講演があった。初日午後より第3日までシンポジウム、一般講演いずれも例年通りプログラムに従って、盛況裏に滞りなく進行した。平成6年度大会の特徴を思いつくままに列記すると、1) 2年前に結成された関西支部会が初めて責任を持って担当した大会であった。したがって予算面で非常に気を使い、本部に

もご心配をかけた。2) 大阪での大会は数多いが、神戸では初めてであり、交通、宿泊、食事、アルバイト学生、懇親会場など担当して頂いた先生方には御苦労が多かった点。3) 本学会誕生に因縁深く、会場が神戸であることも考慮し、清酒メーカー各社にお願いし、学術的きき酒会を初日午後に行った。種々の酵母を使用した清酒は、その目的のために特別に醸造していただき、企画その他を含め担当支部委員の濱地正昭氏をはじめ協力酒造会社の方には大変な労力を注いで頂いた。きき酒会場は大盛況であり、のべ600人以上の参加者があった。4) 関西地場産業の1つである製薬関係のシンポジウムを今中副会長に企画して頂き、MITのA. L. Demain教授の招待講演を始め製薬各社より新薬開発にかかわる興味ある講演をして頂いた。5) 第2日のポートピアホテルでの懇親会は320人の参加者があり、清酒で乾杯をした。また平成7年度大会実行委員長の石崎文彬九州支部長のご挨拶があった。6) 会場には金をかけて比較的大きな7会場を用意したところ、講演申込数が多く、一般講演時間12分でちょうど満杯になった。前回の筑波大学でのポスターセッションは好評であったが、今回は会場が多かったため、全部口頭発表に統一した。7) 本学会活動を地元市民により理解して頂くため、市民フォーラムを新名理事に企画して頂き、第4回ひょうご科学技術トピックスセミナー「バイオテクノロジーと地球環境」を財団法人ひょうご科学技術創造協会(理事長; 熊谷信昭



生物工学賞受賞者 児玉 徹氏



きき酒会風景

阪大前総長)と共催で大会後の12月1日兵庫県民会館ホールで行った。講師は永井史郎会長、今中忠行氏、新名惇彦氏に依頼し、約200人の聴衆で満員になった会場で熱のはいった講演を行い感銘を与えた。8)経費節約のため各会場の受け付けを無人にしたが、OHPによる発表に支障はなかった。9)支部が増えるに従い、大会時における委員会の数も増加し、会場係は場所の確保に苦慮した。以後も考慮すべき問題点である。

これからは支部が主体性を持ち、順番に年次大会を運営することになった。今回は関西地区の多くの大学、企業の方のご協力を得て無事大会を終了出来た。厚く御礼申し上げます。会場となった神戸市を始め、阪神地区を大会後間もない1月17日に大震災が襲い、多くの人命を奪い、会員の住宅、職場が破壊され多額の損害をもたらしたことは痛恨の極みです。心よりお見舞い申し上げます。一日も早い山の緑と海の青の美しい阪神地域の復興を祈念してこの稿を終えたいと存じます。

平成6年度 大会実行委員長 山田 靖宙

第2回囲碁大会(生物工学会会長杯)

開催される!

昨年の日本生物工学会(神戸大会)の前日午後(平成6年11月27日(日)),第2回永井会長杯争奪囲碁大会が、舞子ビラで盛んに開催された。碁を始めた5級から腕に覚えのある五段まで、女性2人を含めて全国より約20人の参加の下、学会前日の半日を楽しんだ(忙中閑在)。

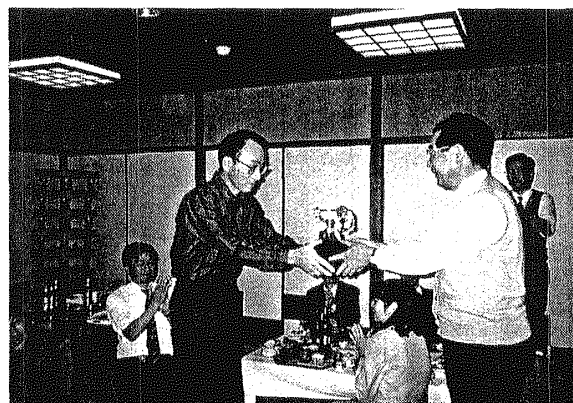
優勝は富田実(徳島県工業技術センター)、準優勝濱地正昭(大関)、第1位黒木猛熊(生物工学会事務局長)で、優勝杯(会長杯)、準優勝賞(千代田製作所、サクラ精機寄贈)、参加賞が贈られ、学会の前日を楽しんだ。

本年の第3回囲碁大会は、日本生物工学会大会(九州)の初日(平成7年10月11日(水)夕方より)、九大で行う予定です(本学会誌に掲載予定)。碁を楽しむ方、酒を楽しむ方、多数の参加をお待ちします。

ここに本大会の準備・運営をしていただいた千代田製作所黒岩敏氏並びにサクラ精機の皆様に厚くお礼申し上げます。

尚、阪神大震災で被災された皆様方に心よりご哀悼申し上げます。

大会委員長:岡崎 光雄(信州大・繊維・応生)



優勝富田実氏(徳島工技センター)会長杯授賞風景

平成6年度 第2回編集委員会議事録

1. 日時 平成6年11月28日(月)12時~13時
2. 場所 神戸国際会議場 405会議室
神戸市中央区港島中町6-9-1
3. 出席者 永井 史郎・今中 宏・小林 猛
今中 忠行・植田 充美・卜部 格
加藤 滋雄・北本勝ひこ・木村 光
*児玉 徹・塩谷 捨明・*清水 昌
*正田 誠・園元 謙二・高木 昌宏
田中 秀夫・長澤 透・仁平 卓也
古川 憲治・室岡 義勝

*印 欠席

事務局 黒木 猛熊・柴野 寛子・片山千代子

4. 議事の経過および結果

第1号議事 平成6年度上半期の編集状況報告
今中英文編集担当理事は、平成6年度上半期の英文編集状況について、資料の通り報告した。

卜部和文編集担当理事は、平成6年度上半期の和文編集状況について、資料の通り報告した。

議長は、以上の報告について意見を求めたところ、全員異議なく承認した。

第2号議事 トピックス委員の委嘱の件

卜部理事は、平成7年3月から始まる和文誌のトピックス委員10名および幹事1名を資料の通り委嘱したいと、提案理由を説明した。

議長は、以上の提案に対し意見を伺ったところ、全員異議なく原案の通り承認した。

第3号議事 編集方針について

今中理事は、次の事項について提案理由を説明した。

- 1) 英語圏の海外投稿論文に対し、英文のチェック

は行いが、費用は請求しない。

- 2) 和文誌のアブストラクトの字体、体裁を資料の通り変更する。
- 3) カラー印刷の費用は約100,000円/頁で、著者負担とする。
- 4) 平成7年度から英文誌、和文誌ともに Key wordを入れる。
- 5) 和文誌に研究所紹介、企業紹介を掲載する。原稿は「若手研究者の集い」が担当すること。

平成6年度 第3回理事会議事録

1. 日 時 平成6年11月29日(火)
12時30分～13時30分
2. 場 所 神戸国際会議場 403会議室
神戸市中央区港島中町6-9-1
3. 出席者 永井 史郎・今中 宏・小林 猛
天知 輝夫・今中 忠行・石崎 文彬
卜部 格・岡 徹夫・木村 光
児玉 徹・新名 惇彦・正田 誠
*鈴木 修・田中 渥夫・田中 秀夫
谷 吉樹・都河龍一郎・富田 房男
土佐 哲也・西谷 尚道
監 事 布川弥太郎・菅 健一

*印 委任状

4. 議事の経過および結果

新名庶務担当理事は、理事の出席数(本人出席18名、委任状2名)を確認し、議長は永井会長であることを告げた。議長は議事録署名人に新名、卜部の両氏を指名して議事に入った。

第1号議事 平成6年度上半期事業報告承認の件

1) 庶務報告

新名庶務担当理事は、平成6年度上半期の事業、会議開催状況および会員異動状況について資料の通り報告した。

2) 編集報告

今中編集担当理事は、平成6年度上半期の英文誌および和文誌の原稿受付状況ならびに投稿数と掲載数について資料の通り報告した。また、過日開催した編集委員会の決議事項について以下のように報告した。

- (1) 平成7年度トピックス委員および幹事を委嘱したこと。

- (2) 英文誌および和文誌にキーワードを付けること。

- (3) 和文誌のアブストラクトの字体、体裁を変更すること。

3) 会計報告

田中会計担当理事は、平成6年度上半期の経常会計の収支について資料の通り報告した。

議長は、以上の報告について意見を伺ったところ、全員異議なく承認した。

第2号議事 定款および細則改正の件

新名庶務担当理事は、「国際会員」の新設について概略をつぎのように説明した。

本会会員と密接な関係にあるアメリカ、タイ、韓国、その他関連学会と友好協定を結ぶことにより、

- イ) 関連学会誌への投稿、研究発表および会費など所属会員と同等の恩恵が受けられ、本会員にとって有益である。

- ロ) 本会会員数の増加が見込まれ、文部省科学研究費補助金の増額が期待できる。などの利点があることをのべた。しかし「国際会員」の新設には、定款および細則の改正が必要であり、文部省と協議を踏まえて、資料の通り改正することを提案した。

議長は、以上の提案説明に対し意見を求めたところ、全員異議なく賛成した。

第3号議事 授賞規定内規の改正の件

新名庶務担当理事は、論文賞授賞内規について次の通り説明した。現行の授賞規定第12条によれば「受賞候補者は、当該の賞に関する受賞候補者の選考に関与することができない」の規定により、論文賞の決定者である常任理事が多数候補者に推薦された場合は、運営が出来ない恐れがあり、資料の通り内規を改正したいと提案理由を説明した。

議長は、提案理由に基づいて意見を伺ったところ、内規変更の趣旨は承認するがしかし、内規文章を簡明に改めることを条件に、次回授賞から実施することを決めた。

第4号議事 次期評議員候補者推薦委員選出の件

議長は、第4号議事について諮ったところ、前回の通り常任理事が推薦委員に選出された。

第5号議事 年次大会、シンポジウム等の開催に関する件

谷企画担当理事は、支部の活性化の方策として、次

の通り提案した。

- 1) 大会、シンポジウムなどの開催を持ち回りとする。ただし技術セミナー、シンポジウムは、開催地を勘案して全国的視野で設定する。
- 2) 予算は独立採算性とする。ただし大会は開催補助金 100 万円または展示開催運用益、および大会参加費を充当する。シンポジウムは、開催補助金 70 万円を限度として交付する。
- 3) 技術セミナーは、開催補助金 50 万円を限度として交付する。
- 4) 平成 7 年度から大会、シンポジウム等の担当を資料の通り持ち回りで行う。

平成 6 年度 第 2 回評議員会議事録

1. 日 時 平成 6 年 11 月 30 日 (水)
12 時 30 分～13 時 30 分
2. 場 所 神戸国際会議場 403 会議室
神戸市中央区港島中町 6-9-1
3. 出席者 荒井 基夫氏 他 22 名, 委任状 37 名
4. 議事の経過および結果

ト部 格庶務担当代理は、評議員の出席数（本人出席 23 名, 委任状 37 名）を確認した後、議長選出について諮ったところ、大嶋泰治氏を全員一致で選出した。続いて議長および会長の挨拶があり議事録署名人に徳山 泰、長谷川 徹の両氏を指名して議事に入った。

第 1 号議事 平成 6 年度上半期事業報告承認の件

- 1) 庶務報告
ト部庶務担当代理は、平成 6 年度上半期の事業、会議開催状況および会員異動状況について資料の通り報告した。
- 2) 編集報告
今中編集担当理事は、平成 6 年度上半期の英文誌および和文誌の原稿受付状況ならびに投稿数と掲載数について資料の通り報告した。また、過日開催した編集委員会の決議事項について次のように報告した。
 - (1) 平成 7 年度トピックス委員および幹事を委嘱したこと。
 - (2) 英文誌および和文誌にキーワードを付けること。
 - (3) 和文誌のアブストラクトの字体、体裁を変更

すること。

3) 会計報告

小林副会長会計担当代理は、平成 6 年度上半期の経常会計の収支について資料の通り報告した。

議長は以上の報告について、意見を伺ったところ全員異議なく承認した。

第 2 号議事 定款および細則改正の件

ト部庶務担当代理は、「国際会員」の新設について概略つぎのように説明した。

本会会員と密接な関係にあるアメリカ、タイ、韓国、その他関連学会と友好協定を結ぶことにより、

イ) 関連学会誌への投稿、研究発表および会費など所属会員と同等の恩恵が受けられ、本会員にとって有益である。

ロ) 本会会員数の増加が見込まれ、文部省科学研究費補助金の増額が期待できる。などの利点があることをのべた。しかし「国際会員」の新設には、定款および細則の改正が必要であり、文部省と協議を踏まえて、資料の通り改正することを提案した。

議長は、以上の提案説明に対し意見を求めたところ、全員異議なく賛成した。

第 3 号議事 授賞規定内規の改正の件

ト部庶務担当代理は、論文賞授賞内規について次の通り説明した。現行の授賞規定第 12 条によれば「受賞候補者は、当該の賞に関する受賞候補者の選考に関与することができない」の規定により、論文賞の決定者である常任理事が多数候補者に推薦された場合は、運営が出来ない恐れがあり、資料の通り内規を改正したいと提案理由を説明した。

議長は、提案理由に基づいて意見を伺ったところ、内規変更の趣旨は承認するがしかし、内規文章を簡明に改めることを条件に、次回授賞から実施することを決めた。

第 4 号議事 次期役員候補者推薦委員選出の件

議長は、第 4 号議事について諮ったところ、次の 15 氏が推薦委員に選出された。

荒井 基夫, 大嶋 泰治, 熊谷 英彦, 新家 龍
左右田健次, 辻阪 好夫, 富永 嘉男, 原 昌道
長谷川 徹, 橋本 直樹, 藤尾 雄策, 福田 秀雄
山崎 真狩, 山縣 民敏, 吉田 敏臣

第 5 号議事 年次大会、シンポジウム等の開催に関する件

ト部庶務担当代理は、支部の活性化の方策として、

次の通り提案した。

- 1) 大会，シンポジウムなどの開催を持ち回りとする。ただし技術セミナー，シンポジウムは，開催地を勘案して全国的視野で設定する。
- 2) 予算は独立採算性とする。ただし大会は開催補助金 100 万円または展示開催運用益，および大会

参加費を充当する。シンポジウムは，開催補助金 70万円を限度として交付する。

- 3) 技術セミナーは，開催補助金50万円を限度として交付する。
- 4) 平成7年度から，担当支部開催地を資料の通り持ち回りで行う。